

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域協力・連携を通じて、生徒一人ひとりの成長と自立を支援し、たくましく生きる人間を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識や人権意識を育み、社会的に自立・貢献できる品格ある人間を育てる。
- 3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀をしなやかに生きる生徒を育成する。

2 中期的目標

1 一人ひとりの学力の向上を図り、進路保障のさらなる充実を図る

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。

ア 少人数授業、習熟度別授業などを積極的に取り入れ、きめ細かい指導体制を確立する。

イ 公開授業、研究授業、授業アンケート等を通じて、授業改善、授業力の向上に取り組む。

教員相互の授業見学等を日常的に実施し授業のコツ、ノウハウ等の共有を図る。

※授業アンケートにおける授業満足度を平成 30 年度には 80%とする。

(2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

ア 3 年間を見通し、1 年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。

イ 補習・講習を充実させ、生徒一人ひとりの進路支援体制のさらなる充実、学習支援体制の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を平成 30 年度には 85%とする。

※生徒の進路達成満足度を平成 30 年度には 85%とする。

(3) 本校の 4 つのタイプのそれぞれの特色を踏まえ教育内容の精選・充実を図る。特に、類型「看護メディカル」については、設定した科目のシラバス等を策定する。

2 規範意識、人権意識を育み、社会的に自立できる人間の育成

(1) 生徒の人間的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

ア 学年・生指部の連携を強化し、学校全体で指導・支援体制の充実を図る。

・学年間の連携を密にすることにより、学校全体で同じ基準ですべての生徒に対応できる体制をつくる。

イ 遅刻指導、挨拶や礼儀の指導を全教職員が継続して取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における生徒指導体制に対する満足度を平成 30 年度には 75%とする。

ウ 生徒会活動、学校行事、部活動等に積極的に係わる、たくましい生徒を育てる。

特に行事の活性化に取組み、学校生活に対する充実感を高める。

※生徒向けアンケートにおける行事満足度を平成 30 年度には 87%以上とする。

(2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。

ア 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を平成 30 年度には 60%とする。

(3) 人権意識、実践力を高める教育活動のさらなる充実

ア 情報ネット社会における人権侵害やいじめなどについて学び、人権感覚、実践力を高める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を平成 30 年度には 80%とする

3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、世界のさまざまな人々と繋がる力、コミュニケーション能力を育成する。

(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。

ア ムードルを使った e-ラーニングにより、反転授業の実施等新しい学習スタイルを確立する。ICT の活用などプレゼン能力を向上させる。

姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国々との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。

(2) 国際教育、ESD（持続発展教育）（ユネスコスクールの取組を含む）の充実・発展に取り組む

ア 国際部が中心となって校内における国際教育、ESD の企画・立案を行い、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。

・オーストラリアの姉妹校をはじめ、様々な国々の人々との交流を計画・実施する。大阪ユネスコスクール（ASPnet）としての活動を、学校レベルで計画実践していく。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する満足度を平成 30 年度には 90%とする。

4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信

(1) 機動的な学校組織運営の確立、若手教員を中心とした人材育成、ICT 機器の活用等に積極的に取り組む。

(3) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(4) ホームページ・メルマガ等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を平成 30 年度 75%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>◎ ICT 機器を整備したことにより、授業での ICT 活用満足度が 91%と大幅に上がった。また、本校の特色である「国際教育満足度」も 90%と昨年に引き続き評価が高かった。年間を通して様々な取り組みを行った結果だと考える。</p> <p>◎ 「清掃が行き届いている」という項目の数値が 39%と非常に低かった。教員の診断結果も同様に低い結果であった。今後の課題である。</p> <p>◎ 保護者向け診断結果において、学校からの情報提供満足度が 75%と H30 年度の目標値を達成した。積極的に HP・メルマガ等を通じて情報発信をした結果だととらえている。</p>	<p>◎ 第 1 回（平成 28 年 6 月 17 日）・・・本年度の学校経営計画の説明。取組重点等を提示した。協議委員より「昨年度の課題を踏まえ、さまざまな取り組みをタイムリーにスピーディーに行っている。その変化を外部にも見える化することが大切。HP 等外部への発信もこまめにされているのでうまく機能していると思う。この調子で頑張ってほしい」</p> <p>◎ 第 2 回（平成 28 年 11 月 25 日）・・・進捗状況を説明。協議委員より「学習習慣の確立のためには、生徒に参加を強く促す勉強会があってもよいのではないか。また、友達と教えあえる学習空間があってもいいのかもしれない。」とアドバイスを受ける。</p> <p>◎ 第 3 回（平成 29 年 1 月 27 日）・・・年度当初に計画した数値目標等がすべて達成されていることに感心した。学校がさまざまな課題に積極的に取り組んでいる様子がよくわかった。普通科の特色をもう少し打ち出していくとよい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 一人ひとりの学力の向上を図り、進路指導のさらなる充実	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。</p> <p>(2)学校全体で、講習・補習体制を充実させる等「学習する体制」を整えることにより生徒一人ひとりの学習支援、進路実現を支援を行う。</p> <p>(3)類型「看護メディカル」の充実を図る</p>	<p>(1)ア 授業アンケート(2回)を円滑に実施する。結果を受け各自授業改善の方策案を提出する等授業改善に取り組む。</p> <p>イ「ICTを活用した授業」「アクティブラーニング」を取り入れた授業」をテーマに実践をする。</p> <p>ウ 相互授業見学及び研究授業を計画的に実施し情報交換を密に行う。</p> <p>(2)エ 首席・指導教諭を中心に、学校全体で「学習する体制づくり」に取り組む。</p> <p>・1年生から進学希望生徒対象の「勉強会」を計画的に実施する。・講習・補習を学年ごとに計画実施する。</p> <p>・SHRの有効活用等生徒の学習習慣の確立を図る。</p> <p>(3)オ 昨年度立ち上げた4つのコースのうち、特に「看護メディカル」コースの教育内容を具体化する。</p>	<p>ア、授業アンケートの満足度を78%とする。(H27 75%)</p> <p>イ「ICT活用満足度」を80%以上とする。(H27 80%)</p> <p>ウ 6月及び11月に相互授業見学を実施し研究授業を年間5回実施する。</p> <p>エ、生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を75%以上とする。(H27 73%)</p> <p>オ 「シラバス」の策定及び地域との連携先を確保する。</p>	<p>ア本年度、府の「パッケージ研修」を活用し、学校全体で研修会を年間3回実施。</p> <p>・授業アンケートの満足度 80%↑(◎)</p> <p>イ生徒の「ICT機器活用満足度」91%↑(◎)</p> <p>ウ指導教諭が中心となり「授業のあり方研究会」発足。年間公開研究授業を計15回実施。(◎)</p> <p>エ本年度より1学年、2学年ごとに「勉強会」を定期的実施し学習合宿を実施する。「学習する体制づくり」の基礎が整う。(◎)</p> <p>・進路指導体制満足度 75%↑(○)</p> <p>・近大22名合格(昨年7名)↑(◎)</p> <p>龍谷大5名合格(昨年1名)↑同志社1名</p> <p>関大11名合格(昨年9名)↑立命館2名</p> <p>オ「看護メディカル」の設定科目のシラバス策定。近隣の病院・専門学校と連携を図り協力体制を整えた。(◎)</p>
2 規範意識、人権意識を育み、社会的に自立できる人間の育成	<p>(1)生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。</p> <p>(2)教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。</p> <p>(3)人権意識、実践力を高める教育活動のさらなる充実</p>	<p>ア 学年間・生指部の連携を強化し、学校全体で同じ基準で生徒に対応する体制を整える。引き続き遅刻指導に重点的に取り組む。服装・ピアス指導も継続する。</p> <p>イ 職員室や準備室の入室時、挨拶や礼儀の指導を全教職員で継続して取り組む。</p> <p>ウ 昨年度の体育祭・文化祭をモデルに各行事のマニュアル化およびさらなる活性化を図る。</p> <p>エ 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。教育相談連絡会を毎月開催する。必要に応じて教員研修会を開く。</p> <p>オ さまざまな人権侵害やいじめなど最新の状況について教職員、生徒がともに学び、人権感覚、実践力を高める。生徒、教職員向け研修を定期的に企画する。</p>	<p>ア、イ</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の満足度を75%以上とする。(H27 71%)</p> <p>・年間の遅刻者数を15%減少させる</p> <p>ウ 行事の満足度を85%とする。</p> <p>エ 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を55%以上とする。(H27 54%)</p> <p>オ 生徒向け、教職員向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を80%以上とする。(H27 75%)</p>	<p>アイ学校全体として、かなり規範意識の向上(遅刻・服装・髪等)がみられた。(◎)</p> <p>・生徒指導・支援体制の満足度73%→(○)</p> <p>・のべ遅刻者数 2131件</p> <p>昨年比22%減↑(◎)</p> <p>ウ体育祭満足度90%以上→(◎)</p> <p>文化祭満足度84%→(○)</p> <p>エ長期入院生徒(1年)に対する学習保障の支援体制を学校全体で取り組む。(◎)</p> <p>・教育相談体制・支援体制満足度55%→(○)</p> <p>オ教員対象悉皆研修4月「障がい者差別解消法」に関する研修会、12月に「セクハラ」研修会実施。(教員人権教育満足度77%)→(○)</p> <p>・生徒向け人権研修を学年別実施。</p> <p>(生徒人権教育満足度72%)↓(△)</p>
3 英語教育、国際教育のさらなる充実	<p>(1)英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。</p> <p>(2)国際教育(ユネスコスクール)の取組を含む)、ESD(持続発展教育)の充実・発展に取り組む</p>	<p>ア 「国際教養科」のカリキュラムをリニューアルし生徒及び保護者のニーズに即したものとす。</p> <p>イ 「パッケージ研修」を活用しICT機器の活用方法等引き続き英語指導法の研究に取り組む。少人数指導の効果を検証する。</p> <p>ウ 姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。昨年度実施した「セブ島英語集中研修」を継続実施する。</p> <p>エ 英検の準2級以上の合格者数増をめざす。</p> <p>オ 国際部が中心となって校内における国際教育、ESDの企画・立案を行い、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。ユネスコスクールとしての取組を企画実施する。</p>	<p>ア 年度内にカリキュラムを策定する</p> <p>イ 英語科の研究授業を年間3回は実施する。</p> <p>ウ 海外語学研修、イングリッシュ・キャンプ等の参加者の満足度を85%以上とする。</p> <p>エ 英検準2級合格者者数45名以上(H27 44名)</p> <p>英検2級合格者者数18名以上(H27 18名)</p> <p>オ 講演会・ワークショップ等国際教育、ESDに関する取組を定期的実施する。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する満足度を90%とする。(H27 87%)</p>	<p>ア「国際教養科」カリキュラムを「国際」「英語」の2コース設定。特に「英語」コースでは、英語の授業時間数を十分確保した。(◎)</p> <p>ウケアンズホームステイ研修、セブ語学研修すでに終了。満足度ほぼ100%。イングリッシュキャンプ8月に実施。満足度ほぼ100%。(◎)</p> <p>エ 英検合格者数 準2級57名↑(◎)</p> <p>2級27名↑(◎)</p> <p>オ ○今年度国際交流の実施状況(◎)</p> <p>6月 アメリカより高校生11名来校・ホームステイ受入)</p> <p>10月 インドネシア交流</p> <p>11月 台湾修学旅行で現地校と交流</p> <p>オーストラリア姉妹校来校(ホームステイ受入)</p> <p>12月 フィリピンとの交流</p> <p>・学校教育自己診断において本校国際教育に対する満足度90%↑(◎)</p>
4 地域・保護者となつながら魅力ある学校づくりと情報発信	<p>(1)学校の組織的運営の確立、若手教員を中心とした人材育成</p> <p>(2)中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>(3)広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。</p>	<p>ア 学校の課題解決に向け、適宜必要となるチームを立ち上げスピーディーに対応する。Ex「類型を充実させる会」「修学旅行を検討する会」</p> <p>イ 首席が中心となって若手教員の実践的な研修を継続実施し、人材育成に努める。</p> <p>ウ 各教科、クラブ単位で地域の保育所、小中学校・福祉施設等地域との連携行事を積極的に企画実施する。</p> <p>・地域と連携した国際交流行事等を充実させる</p> <p>エ 学校ホームページのさらなる充実、保護者携帯へのメール送信の充実。また学校ニューズレター等の発行など地域への広報活動をより積極的に行う。広報活動について、学校全体で取り組む体制を確立する。</p>	<p>ア チームを年間3つ以上立ち上げ、学校の課題解決につなげる。</p> <p>イ 「共育研修」を定期的実施する。生徒対応等で緊急に必要な知識理解についてはその都度研修会開催(H27 4回実施)</p> <p>ウ 参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度を80%以上とする。(H27 80%)</p> <p>エ 保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を73%以上とする。(H27 71%)</p>	<p>ア「国際教養科を考える会」「授業のあり方研究会」「修学旅行を考える会」「学校DVD作成チーム」を立ち上げそれぞれ目標達成した。(◎)。</p> <p>イ「次世代育成チーム研修」「共育研修」を計6回実施。(◎)</p> <p>ウ今年度新たに「千代田駅前挨拶運動」「千代田駅コンサート」「東中研究授業参加」「市職員による「政治的素養をはぐくむ教育」「河内長野の歴史」出前授業」「保健所とのコラボによる食育」を実施し交流の幅が広がった。満足度80%(◎)</p> <p>エホームページの更新回数増、保護者メールの適宜送信、学校ニューズレター発行等を積極的に実施。保護者満足度75%↑(◎)</p>